

## 2025年度持田記念学術賞ならびに研究助成等について

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団（理事長：持田直幸、以下「当財団」）は2025年度の持田記念学術賞受賞者、ならびに研究助成金および留学補助金交付対象者を決定しましたのでお知らせいたします。

今年度の持田記念学術賞には17名の研究者が推薦され、その中から大阪大学の荒瀬尚博士、京都大学の竹内理博士を選出しました（褒賞金：1000万円/件）。研究助成および留学補助には740件の申請があり、研究助成金交付対象者100名（300万円/件）、留学補助金交付対象者20名（50万円/件）を選出しました。

今年度は研究者招聘助成金交付対象18学会（50万円/件）を含めて研究助成金等として総額3億3900万円を贈呈します。

研究領域		研究助成	留学補助	学術賞	招聘助成
領域1	バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究	11件	3件	2件	18件
領域2	バイオ技術を基盤とするゲノム機能/病態解析に関する研究	12件	2件		
領域3	免疫/アレルギー/炎症/感染症の治療ならびに制御に関する研究	25件	3件		
領域4	循環器/血液疾患の病態解析/治療制御に関する研究	16件	9件		
領域5	創薬・創剤の基盤に関する研究	23件	1件		
領域6	創薬とその臨床応用に関する研究	13件	2件		
合計		100件	20件	2件	18件

当財団は1983年10月の設立以来、研究助成2956件（計64億2432万円）、留学補助661件（計3億3050万円）、持田記念学術賞85件（計5億200万円）、研究者招聘助成350件（計1億7446万円）の総額74億3128万円の助成ならびに贈呈を行っております。

当財団は、今後も多くの研究者へ研究支援を行い、医学・薬学の振興に貢献してまいります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団 [zaidan@mochida.co.jp](mailto:zaidan@mochida.co.jp)

## 2025年度持田記念学術賞受賞者



荒瀬 尚（あらせ ひさし）博士

大阪大学 免疫学フロンティア研究センター

免疫化学研究室 教授

受賞研究テーマ

「宿主－病原体相互作用を介した疾患発症機構の解明」

荒瀬博士は、抑制性受容体と活性化受容体から成るペア型免疫受容体の研究を先導し、抑制性ペア型受容体が病原体による免疫逃避戦略に利用される一方、活性化ペア型受容体は、免疫逃避機構を獲得した病原体を認識・排除するために宿主免疫系が進化させた分子であることを解明しました。特に、十分に解明されていなかった単純ヘルペスウイルスや水痘・帯状疱疹ウイルスの細胞侵入機構に抑制性ペア型受容体が関与することを示しました。さらに、代表的なペア型受容体であるNK細胞受容体の遺伝子多型性が、熱帯熱マラリア原虫との宿主－病原体間の攻防で生じた可能性を明らかにしました。

近年、世界的脅威となった新型コロナウイルスについても、抗体を介した免疫逃避機構が存在することを見いだしました。また、エプスタイン・バーウイルスの再活性化によって、通常は提示されない自己抗原がMHCクラスII分子に提示され、その結果自己応答性T細胞が活性化され自己免疫疾患を引き起こすという新たな疾患発症機構を解明しました。

荒瀬博士のこれら研究成果は、感染症に対する次世代ワクチンや治療薬の開発、更には自己免疫性疾患の根本治療法の開発に大きく貢献する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- 1965年11月16日生
  - 1990年3月 北海道大学 医学部 卒業
  - 1994年3月 北海道大学大学院医学研究科 博士課程 修了
  - 1994年4月 千葉大学医学部附属高次機能制御研究センター 遺伝子情報分野 助手
  - 2000年8月 カリフォルニア大学 サンフランシスコ校 研究員
  - 2002年8月 千葉大学大学院医学研究院 遺伝子制御学 助教授
  - 2006年6月 大阪大学 微生物病研究所 免疫化学分野 教授（現職）
  - 2007年10月 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫化学研究室 教授（現職）
  - 2019年4月 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 副拠点長（現職）

## ○主な受賞歴

2020年 野口英世記念医学賞 2021年 ベルツ賞 2022年 太田原豊一賞

## 2025年度持田記念学術賞受賞者



竹内 理 (たけうち おさむ) 博士

京都大学大学院医学研究科

医化学分野 教授

受賞研究テーマ

「mRNA 分解による免疫制御機構の発見とその制御法の開発」

竹内博士は、炎症に関わる mRNA の分解による免疫制御機構の存在を世界で初めて明らかにしました。TLR シグナルにより早期に誘導される遺伝子として Regnase-1 を発見し、この分子が炎症性サイトカイン (IL-1 $\beta$  や IL-6 など) 等免疫応答に関与する mRNA を分解する RNA 分解酵素であることを解明しました。

Regnase-1 欠損マウスは重篤な自己免疫性および炎症性疾患を自然発症し、Regnase-1 がマクロファージのみならず、T細胞や自然リンパ球など多様な免疫細胞の活性化を制御する中核的な因子であることを明らかにし、多発性硬化症、肺高血圧症、肺線維症、潰瘍性大腸炎患者と Regnase-1 の関連性を報告しました。また、mRNA 分解を担う類縁の RNA 結合タンパク質である Roquin ファミリーの機能も明らかにしています。さらに、mRNA 構造を標的とするアンチセンスオリゴ核酸 (ASO) を用いた免疫制御法の開発も進めています。

竹内博士のこれら成果は、免疫制御機構の新規理解にとどまらず、mRNA 医薬、ワクチン開発、タンパク質製造法の革新など、幅広い分野への波及が期待される世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- 1970年5月25日生
  - 1995年3月 大阪大学 医学部 卒業
  - 2001年3月 大阪大学大学院医学系研究科 博士課程 修了
  - 2002年4月 ハーバード大学 ダナファーバー癌研究所 研究員、HFSP 長期フェロー
  - 2004年4月 大阪大学微生物病研究所 自然免疫学分野 助教
  - 2007年4月 大阪大学微生物病研究所 自然免疫学分野 准教授
  - 2012年4月 京都大学ウイルス研究所 感染防御研究分野 教授
  - 2016年10月 京都大学ウイルス・再生医科学研究所 感染防御分野 教授 (改組による)
  - 2018年10月 京都大学大学院医学研究科 医化学分野 教授 (現職)

## ○主な受賞歴

2015年 日本学術振興会賞 2015年 日本学士院学術奨励賞 2023年 文部科学大臣表彰科学技術賞